

第 1 回・2 回「特別支援学級運営充実検討委員会」会議概要

- 1 日時 第 1 回 令和 4 年 2 月 1 日 (火) 午前 10 時から正午まで
第 2 回 令和 4 年 2 月 18 日 (金) 午後 2 時から午後 4 時まで
- 2 場所 徳島グランヴィリオホテル 1 階 グランヴィリオホール
- 3 出席者 委員 10 名中 (第 1 回は 9 名出席, 第 2 回は 9 名出席)

4 検討委員会委員から出された主な御意見 (3 つの検討事項別に整理)

○第 1 回

(1) 検討事項 1 特別支援学級に関わる教員の専門性向上について

- ・鳴門教育大学との連携により, 将来教員になる大学生やリーダーになる現職の先生方にも, 特別支援に関わる専門性が育つような仕組みを作っていただきたい。
- ・担任する児童の障がい特性について, 学んでおくことが必要。学力を保障できる学習内容の検討や教材の工夫などが大切である。
- ・特別支援学級でコンサルテーションを行う際には, 学級担任だけが相談する形ではなく, コーディネーターを含めた学校全体で取り組むことが重要である。
- ・特別支援学級担任は, 保護者との連携をしっかりと, 「小学校 6 年間, 中学校 3 年間でどんなふうに育ててほしいのか」という保護者の願いを知ってほしい。

○第 2 回

(1) 検討事項 2 校内支援体制の充実・連携強化について

- ・特別支援学級担任は, 経験上, 孤立しがちである。交流学級の担任や管理職など職員全体で一人の児童を支援するよう考えていくことが大事である。
- ・校内支援体制において必要なことは, 「相談できる人がいる」, 「相談できる場所がある」といった悩みを共有できる心理的なサポートである。
- ・交流学級では, 先生より友達の方が声かけが上手だったということもあり, 交流学級での学級経営も大事だと感じる。
- ・「ポジティブな行動支援」のような分かりやすい支援を行うことにより, 交流学級や特別支援学級でも楽しく学べる環境が整うと, 子どもも保護者も安心する。

(2) 検討事項 3 相談支援体制の充実について

- ・様々な解決策を蓄積している特別支援学校のセンター的機能を活用し, 県下の特別支援学級が定期的にオンラインでつながり, 事例検討をする取組も有効である。
- ・最初に関係機関等へ連絡する時には, 垣根が高いと感じる。「誰に」「どうやって」といった「相談ノウハウ」を教員全体に対して周知していただきたい。
- ・学校内で解決が難しい時には, 他校と Zoom でつながり, 他校の解決策を参考にするとよい。
- ・将来を見据えて継続的に支援が必要な時には, 教育関係者だけでなく, 保護者や親の会などが蓄積しているノウハウや情報を活用いただきたい。